

TAIYO

セルフロックングフックPG 取扱説明書

TAIYO

TAIYO SEIKI IRON WORKS CO., LTD.

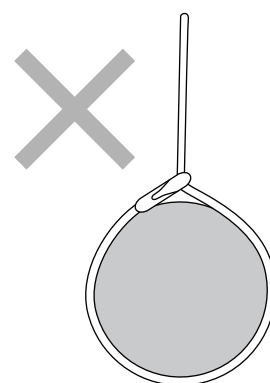
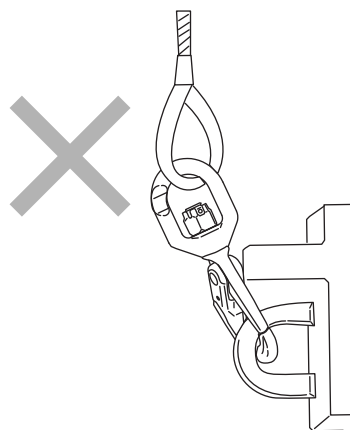
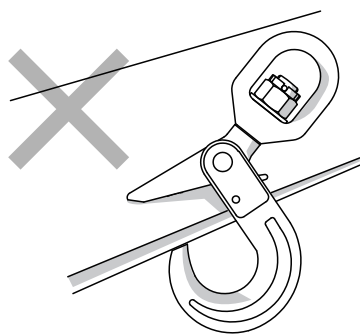
ご使用上の注意事項

ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読み頂き、内容をよくご理解頂いたうえで、セルフロックングフックPGをご使用下さい。また、必要と思われる部署や現場には必ず配布し、必要な場合にはいつでも参照できるようにしておいて下さい。

- ◆ 使用荷重を確認し、使用荷重以下の荷重で使用して下さい。
使用荷重をこえて使用しますと事故の原因となります。また、衝撃荷重を掛けないで下さい。
- ◆ 使用前点検でセルフロックングフックPGに外観上不具合や各部に異常がないか調べて下さい。
外観上不具合や各部の異常がある場合はご使用にならないで下さい。
- ◆ 改造による強度低下及び安全の低下を防止するため、下記のような改造は行わないで下さい。
1. 機械加工などの追加 2. 溶接 3. 熱処理 4. めっき処理

- ◆ セルフロックングフックPGの損傷などを防止するため、下記のような使用をしないで下さい。

- ① ラッチを開いた状態で荷を吊り上げないで下さい。
- ② セルフロックングフックPGを固定するなどして、横方向へ無理に荷重をかけないで下さい。
- ③ 荷に巻き付いた玉掛け用スリング（ワイヤロープ・繊維スリング・チェーンスリング等）をセルフロックングフックPGで固定しないで下さい。



- ⑤ セルフロックングフックPGを他の製品に溶接したり、セルフロックングフックPGの付近で溶接作業を行わないで下さい。
材質変化が起こり、強度が著しく低下します。
- ⑥ セルフロックングフックPGを常に水中で使用しないで下さい。
- ⑦ セルフロックングフックPGを投下や放り投げたり、ハンマー等で強く叩いたり、重量物等の下敷きにしないで下さい。
セルフロックングフックPGが曲がったり、当たり傷が生じて破損の原因になります。
- ⑧ 腐食性雰囲気（酸・アルカリ）および200℃を超える高温雰囲気で使用しないで下さい。

大洋製器工業株式会社

<https://www.taiyoseiki.co.jp/>

セルフロックングフックPG トリガーセット 交換要領書

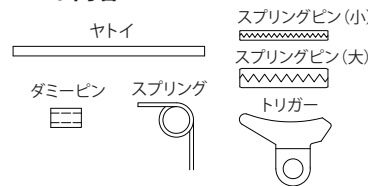
セルフロックングフックPGのトリガーセットを交換する場合は次の要領で行ってください。

◆ 交換に必要な物

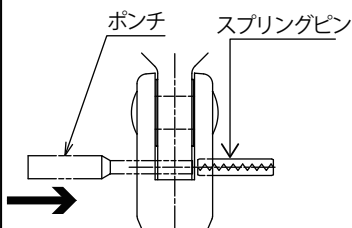
- ・交換用トリガーセット(本製品) ・ポンチ、ハンマー等 ・スプリングピン等が通過できる台

◆ 交換手順

セット内容

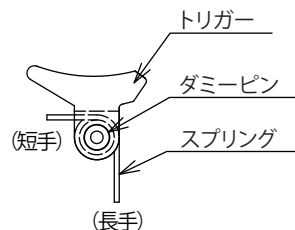


① 取り外し



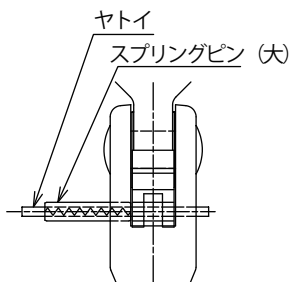
スプリングピンをポンチとハンマー等を使用して抜き取り、交換前のトリガーを取り外します。スプリングピンが抜けられない場合、交換不可となります。(製品自体に想定外の負荷がかかっている可能性があります。)

② 準備



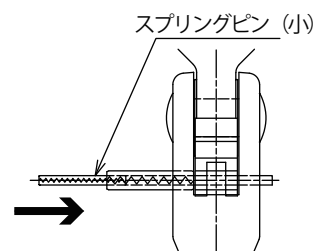
図の通り、トリガーとスプリングをダミーピンにてセットしてください。この時、スプリングの向きに注意して下さい。(スプリング短手がトリガーと接触、長手がフックと接触となります。)

③ 仮組み



トリガーをフックに押し込んだ状態でヤトイを通し、フックとトリガーを固定して下さい。(左図)その後、ヤトイに沿ってスプリングピン大を入れ、4~5mmたたき入れて下さい。

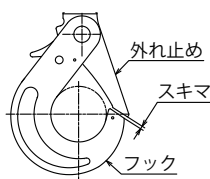
④ 挿入 (完成)



③で入れたスプリングピン大に小を入れ、ハンマー等でスプリングピンをたたき入れて下さい。ヤトイ、ダミーピンは、スプリングピン小に押し込まれ、フックの反対側から出てくる為、抜けるスペースが必要です。

⚠ 注意

I

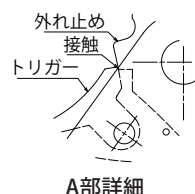
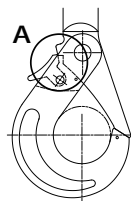


判定基準

| 呼び | スキマ寸法 (mm) |
|------|------------|
| 1.2t | 2 |
| 2t | 2.5 |
| 3t | 3 |
| 5.2t | 3.2 |

I. トリガー交換後、フック先端部のスキマ(左図)が判定基準を超えるものは、フックが変形しています。その為、使用不可となります。

II



II. トリガー先端が、「フックの外れ止めに設けられたロック部分の出っ張り」に接触し、奥まで入らない場合があります。(左図A部詳細参照)これは本体の使用状況などによるもので、トリガーの不良ではありません。ただ稀にロック機能が正常に作動しない場合がありますので、下記内容にて調整して下さい。

【調整方法】

外れ止めの先端部をヤスリ等で平行に削り、調整して下さい。(左図中の調整時削り位置参照)削りすぎると、フック先端部のスキマが大きくなりますので注意して下さい。

